
一 般 質 問 通 告 書

(通告者 6 名)

令和 4 年裾野市議会 9 月定例会

目 次

9月12日（月）

番号	氏 名	ページ	一括 質問	一問 一答
1	土屋 秀明 議員	1 ~ 3		○
2	井出 悟 議員	4 ~ 5	○	

9月13日（火）

3	中村 純也 議員	6 ~ 9	○	
4	小林 俊 議員	10 ~ 14		○

9月14日（水）

5	岩井 良枝 議員	15 ~ 16		○
6	木村 典由 議員	17 ~ 18		○

質問議員 質問事項	質問の要旨	答弁要求者 職名
<p>1 土屋 秀明</p> <p>1 御師公園事業の推進と地元要望の実現について</p>	<p>村田市長の議会答弁や発言の中で、富士山信仰における須山浅間神社と御師の歴史的価値や、それを活かせる観光資源としての大きな期待があることを感じております。建設事業着手も見えてきましたところで、事業推進を望んでの質問です。</p> <p>(1) 建設事業計画の内容を伺う。 ア 全体面積と総事業費を伺います。</p> <p>イ 歴史公園の分類だが、何をもって歴史を感じさせる内容ですか。</p> <p>(2) かねてから要望がある旧渡邊家の復元御師住宅の建設は認められたのですか。</p> <p>(3) 当事業へ地元負担（寄附）を求めているのですか。</p> <p>(4) 休館の富士山資料館の貴重な所蔵物は、このままでは埋もれてしまうと危惧する。将来的に公園内に新たな資料館を作り歴史を伝承する考えはありますか。</p>	<p>市長</p>

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 要 求 者 職 名
<p>2 国道 469 号の整備要望を積極的に行い早期の実現を（建設促進期成同盟会としての要望に）</p>	<p>(1) 十里木地区バイパスルートの実現に向けて</p> <p>ア 約 800mのバイパス案は決定に至らず、想定交通量調査などから静岡県は事業化に取り組まないと判断していた。しかし、市の建設部を通して県がバイパス計画の調査費を予算化したとの連絡が入った。内容を確認したい。</p> <p>イ バイパス計画作成に裾野市の考えを入れるべきである。県に伝える市の具体策は何ですか。</p> <p>ウ 既存のルート案と同様に愛鷹山腹側にすべきと考える。十里木集落は盆地で大量の降水時には、雨水処理ができず地区内の調整池に入れて地下浸透を待つしかない状況である。 愛鷹山からの雨水処理事業を道路整備事業と同時並行して行い、集落の現状を変えることが合理的である。これを県に求めるべきでないですか。</p> <p>エ 国道 469 号建設促進期成同盟会を通してバイパス道路整備と雨水処理事業を県に要望することが早期解決になると考えます。この手法が取れませんか。</p> <p>(2) 東富士演習場内の国道 469 号は歩道もなく、歩行者も自転車走行とも大変危険な状況である。 東京オリンピック・パラリンピックでは男子の自転車ロードレースのコースとなった。オリンピックのレガシーとしても、自転車と歩行者が安心安全に利用できる道路整備が必要であります。早期に取り組みませんか。</p>	<p>市 長</p>

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 要 求 者 職 名
<p>3 市街化調整区域に存する市北西部の存続に向けて効果的な施策はないのか</p>	<p>人口減少と少子・高齢化は全国的な現象であり、当市も例外ではなく特に市街化調整区域内において急速に進んでいる。小中学校再編や幼保施設再整備などが顕著な表れである。このままでは、各地区の存続が危ぶまれる現実が迫っている。この状況にあらがう施策が必要である。</p> <p>(1) 市の各種委員に就任している学識経験者は、「市街化調整区域内に人口の40%が居住している。市全域に広く分布しており、そこで各地区の個別の文化伝統が活かしている。このことは、行政の取り組みを大変難しくしている」と、言及されている。さて就任間もない及川副市長の目には、この特異さがもたらす行政の難しさは、どの様に映っているのですか。</p> <p>(2) 各地区の存続や活性化のために取り組んできた施策はどの様なものでしたか。</p> <p>(3) 今までの取り組みでも効果をもたらさない。そこで休眠状態の土地を活かすためにも、そして人口対策のためにも、農地関連法の規制解除と都市計画法線引きの撤廃を早期に進めるべきだとの意見が自分同様に根強くあります。取り組まれますか。</p> <p>(4) 県道24号線沿いの地区には食料品などの商店が一部にあるだけで皆無の状況、買い物難民の対策を至急講じるべきだが、考えをもちっていますか。</p> <p>(5) 小中学校再編により、地元イコール学校という今までの関係が薄くなる地区の、児童・生徒・地区に文化・伝統の伝承も含めてどの様に向き合っていくのですか。</p> <p>(6) 企業誘致を富士裾野工業団地隣接に諮っている。市税増収や雇用の期待以外に、地元地区の人口対策、活性化に併せて取り組む機会ではないですか。</p>	<p>副 市 長</p> <p>市 長</p> <p>教 育 長</p> <p>市 長</p>

質問議員 質問事項	質問の要旨	答弁要求者 職名
<p>2 井出 悟</p> <p>1 小中学校の再編は、児童生徒の学びの希望を叶えるためにスピード感を持って取り組もう</p>	<p>小中学校の再編の必要性については、教育環境の観点では教育委員会が、持続可能な行政運営の観点やまちづくりの観点では市長部局が、それぞれ課題感を示しており、その根幹は想像を絶するスピードで加速する子どもの減少に起因していると考えている。</p> <p>とりわけ第3回地域意見交換会では、再編の可能性のある東地区・富岡地区・深良地区・須山地区については、これまでのPTA・保護者意見交換会における参加者の声と再編の可能性について、より踏み込んでデータの分析を行い意見交換を重ねて来られた。</p> <p>その中でも多くの大人が、受け止めなければならない事実が2つある。1つ目は令和3年度生まれの子どもが「369人」で、5年後は西小、富一小、東小以外は単学級編成となる可能性や、1年生が2人以下という小学校の状況も示されていることである。令和3年度の新1年生の人数が「465人」なので、たった6年で▲21%減少してしまうこととなる。</p> <p>2つ目は過小規模となっている中学校の生徒に「大規模統合または小中一貫」どちらを選びたいかアンケートをされた結果が公表されているが、「68%」の生徒が、「大規模校になって、自分のやりたい部活を選びたい。」「新しいことにチャレンジしたい。」「色んな人と関わり合いを持ちたい。」「新しい友達を作り・増やしたい。」などの思いを描いていることが分かった。過小規模となっている中学校の生徒たちが世界を広げることができず、大人の都合により可能性を与えず我慢させてしまっている現実を突きつけられ、大きな衝撃を受けた。</p> <p>今回の意見交換会、とりわけ中学生などの生徒たちからの普段聞く機会がほとんどない、教育環境の適正化を図るための学校再編（統合）というセンシティブな議題に対する意見を、クロームブックを活用し、本音を引き出してくれた担当課の発想については敬意を表するし、1人の大人として、子どもを持ち地域で育てる子育て世代の一人として、大人の感情や都合でいつまでも子どもたちに我慢を強いるような政策を続けるべきではなく、スピード感を持って児童生徒の学びの希望を叶える必要があると切に感じている。</p> <p>子どもの数の加速的な減少に対処するためには学校再編が不可避であり、将来の子どもたちの学びの希望を叶えるために、大人として結論を先延ばしにするべきではないという認識のもと考えを伺う。</p>	<p>市長 教育長</p>

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 要 求 者 職 名
	<p>(1) 地域によっては、教育のあり方検討委員会が示した「小中一貫」「義務教育学校」に加え「幼保小」「幼保老小」など、人口減少が進む集落地域だからこそ、児童生徒と地域住民などの日常的な交流の機会の創出が、集落地域のコミュニティに必要な場合もある。しかし、「学校教育施設再編基本計画審議会」は教育委員会(コミュニティスクール)関係者で構成されているため、いわば「学校を複合化して、人口減少が進む集落地域だからこそその課題」を議論できる状況になっているとは言えない。再編の可能性のある地域の課題を審議ができるよう、審議会委員の再考が必要ではないか。</p> <p>(2) 「大規模校になって、自分のやりたい部活を選びたい。」「新しいことにチャレンジしたい。」「色々な人と関わり合いを持ちたい。」「新しい友達を作り・増やしたい。」の希望を叶えるため、学校再編の議論と並行して、月1回程度は交流教育の機会を設け、子どもたちの受け止めを聞き、保護者や地域の方々に学校の様子を参観できる機会を数多く作ってはどうか。</p> <p>(3) 就学調査の際、再編の可能性のある東地区・富岡地区・深良地区・須山地区については「現在の学区の小中学校に行きたい」「大規模校に行きたい」の希望調査を毎回し、結果を公表したらどうか。</p>	

質問議員 質問事項	質問の旨	答弁要求者 職名
<p>3 中村純也</p> <p>1 市民目線が日本一の裾野の具体的な姿について</p>	<p>日本一市民目線のまちを目指して行政運営を進めるスタンスは、大変共感できるものである。しかしながら、「市民目線」による行政運営は、どのまちの首長も各級議員も口にする言葉であり、市民福祉の向上を目指す中で必要不可欠な姿勢である。またそのような必要不可欠な姿勢であるからこそ、具体的な取り組み内容は、当該市民には分かりにくく、またどこが市民目線なのか疑問を持たれる場合が多く存在する。</p> <p>一つの事柄に対して、その必要性や規模、実施方法、対象、資源など関係するが、市民はいろいろな思いを持っており、例えば賛成だったり、反対だったりの思いもその一つ。「市民目線」を単純な解釈で理解すると、その事柄に賛成と反対があった場合の市民目線で選ぶのはどのようにするのか。あるいは市民目線のレベルとはどういうものを指すのかなど、掴みどころのない議論にも発展しかねない。最終的には行政運営において「選択」が行われることになるため、市民目線について分かりにくさを広げてしまうことにもなり得る。住民福祉の向上に必要不可欠な市民目線、この当たり前のことを敢えて推進方針のように掲げた背景には、さまざまな狙いや具体的な方策、あるいは施策立案過程での手法などがあるものと考えられる。</p> <p>これから村田市政が裾野市を牽引する中、目指している「市民目線のまち」とはどういったものか、以下伺う。</p> <p>(1) 相模原市は「お客様対応日本一」を掲げて行政運営しているとのこと。ここに至った経緯として、「行政職員が上から目線である」との仕事の姿勢に対する苦情が発端となり、方針を出し、接遇マニュアルを作るなど具体的な仕事の仕方の改善に取り組んでいるとのことである。市民から意見が寄せられるとそれを改善に繋げる仕組みも構築したようである。</p> <p>当市において「日本一市民目線のまち」を目指すに掲げるに至った経緯について伺う。</p> <p>(2) 市長が考える「市民目線」の現状における課題、及び目指す姿にはどのようなものがあるのか、特に「施策」「職員」「市民」という括りでの、見解を伺う。</p> <p>(3) 市民目線に対して「日本一」というレベル（指標）を掲げているが、目線そのものの数のほか、高さ、広さ、大きさ、強さなどの幅、あるいは種類といったように指標は多くある。例えば、苦情の数の増減、施策に対する意見数、課題への調査数、施策の賛同者数、施策検討の参画者数など取り繕うと思えば、その時々において指標を変え、市民目線であると言い切ることも可能な方針と言えなくもない。</p> <p>この際掲げている「日本一」の市民目線の状態とはどういった当市の状態を目指すとしているのか、考えを伺う。</p>	<p>市長</p>

質問事項	質問の要旨	答弁要求者 職名
<p>2 デジタルトランスフォーメーションと市民目線の施策推進について</p>	<p>さまざまな課題解決に取り組む手法としてデジタルトランスフォーメーション（以下、DX）が推進されている。企業でも自治体でもさまざまな手法について、課題を乗り越え挑戦することを繰り返す中で活用されている。</p> <p>地方自治体がDX推進する中において、地域の困りごとや課題の照会、進捗管理など局所的なデジタル化が紹介され、対応のスピードアップなどが取り上げられることがあるが、DX推進はそのような局所的な変革や全域的な価値創造といった枠で収まることはなく、さまざまな取り組みの結果として、社会的な影響いわゆる波及効果を生み出していくことが期待されるものである。その中でもさまざまな考え方があるが、私は企業の取り組みにおいて活用されているデザイン思考が市民目線で取り組む自治体での推進にまず活用できるのではないかと考えている。ユーザーの視点に立ち、サービスや商品の本質的な課題・ニーズを発見して、ビジネス上の課題を解決するための思考手法と言われるデザイン思考は、そのまま地域サービスとなる行政施策に合致するものであると考える。市民目線で取り組む政策立案において、人口減少という未知の社会における、いわゆる前例のない問題の解決策を導くDX手法は欠かせない手法であると考えているが、具体的に政策立案過程においてどのように取り入れていくか、自治体手腕が問われているのが現状でもある。そこで以下伺う。</p> <p>(1) デジタルトランスフォーメーションは、デジタル変革と直訳されることから、デジタル技術を社会に浸透させて、生活の質をより良いものへと変革することを目指すといった、取り方によっては部分的にも広域的にも捉えられるような紹介がされ、一部アナログからデジタル化することやAIなどを活用した分析のスピードアップに取り組もうとする事例が存在する。</p> <p>当市では、DX推進の取り組み工程（導入過程）についてどのように進めるのか、考えを伺う。</p> <p>(2) 課題解決のステップは、これまでと大きく異なるものではない。市民生活における課題とされる事項の解決には、当然ながらその対象である市民と一緒に取り組む姿勢は変わらないし、その姿勢が必要であると考えている。部分的なデジタル技術の導入ですら、その調査量や調査範囲などは格段に広げることが可能となり、ニーズ調査などはより深く実施することで、生まれる施策がより多くの方の共感のもと実現することが可能となりうると期待される。一方、新しい取り組みのように捉えられがちで、拒否感を持つ方もいることも事実である。DX推進には、より身近に感じてもらえる説明や導入手順、関係者の参画意欲への工夫も重要であると考えているが、市民や職員などへの手法の浸透について、どのように取り組むのか、考えを伺う。</p>	<p>市長</p>

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 要 求 者 職 名
<p>3 市民の SNS 発信を活かせる行政運営の变革と、シティプロモーション体制の強化について</p>	<p>景観資源を求めた本市へのアプローチが増え、さらに交流人口の増加につながっていると感じているのは私だけではないと思う。行政担当部署やフィルムコミッションなど関係者の努力、そしてそれを応援する多くの市民のエキストラ参加が、本市フィールドのドラマや映画などのロケーション撮影や芸能活動者のプロモーションビデオへの登用につながったものと考ええる。しかしその一方で、その採用実績や経済効果は、関係者自身あるいは数字上では何かしら把握できる効果を上げているようではあるが、市民が生活の中でどれだけそのことを感じることができているか不明である。ドラマでの採用を後から聞き「えっそうなの?」「もったいない」「もっとPRすればいいのに」との市民の声は、活動の発信力あるいは活用施策などに弱さがあると言えるのではないだろうか。</p> <p>また、このフィールドが登用に至る手前に、関係者の目にどのように止まったのかという点に大変興味も注がれる。中でも、フィールドを題材としたソーシャルネットワーキングサービス（以下、SNS）に投稿する市民などの存在が大きいと私は考える。景観資源そのものは、ずっとそこに存在してきたものであるが、それを活用しよう、活用したいと考えた需要側と供給側の思いの合致が、ロケーション撮影の登用につながり、さらに関係する情報の発信が、裾野の景勝地などを知り、市内外の方がその地を訪問するといった交流への誘導にも貢献していると考えられ、その輪は今少しずつ広がっている。</p> <p>つまり、こういったシティプロモーションの始まりは、これまで文化的資源や景勝地などを整備し続けている個人や地域団体の地道な努力、あるいは市民が知ってほしいと自ら発信し続けてきた成果にあるのではないかと考える。</p> <p>市民が何気なく発信している裾野市のフィールド写真などであるが、受け手（読み手）がその映像や言葉のどこに興味を持ち、どのように感じ、どう行動するかはさまざまなほど多くの情報が入り込んでいるといえる。発信者側としても、積極的にあるターゲットに向けて、興味をひけるよう工夫した投稿を行っている市民もいる。この情報の中には、他者へのPRのほか、その場に対する思い、個々の活動に対する課題や困りごとなども含まれている。市民が何気ない投稿の中でシティプロモーションを行い、その思いも訴えているこの情報を行政はどれだけ活用できているか、市民自らが公開している情報は、公共施設に設置してある意見箱や最近行政が始めたデジタル目安箱に匹敵する重要な声ではないかと考える。</p> <p>市民が自分たちのまちに来て欲しい、見て欲しいという思いは、住んでほしいとの思いにも繋げられ、自治体の抱える大きな課題である人口減少の抑制策にも活用は可能である。シティプロモーションは表面的な発信だけではなく、市民が見つめる思いの先の姿に貢献するものでもある。また市民協働は市民が主としてまちづくりに参画することを指すのではなく、関係者がそれぞれ役割を分担しつつ、共にコミュニティを創り上げることをさすもので、まちの資源を活かすシティプロモーションにおける行政の役割は今以上に強化する必要があると考え、以下伺う。</p>	<p>市長</p>

質問事項	質問の要旨	答弁要求者 職名
	<p>(1) 市民の努力の積み重ねが生み出し、更なる可能性を秘めている裾野フィールドを発信するシティプロモーション事業について、経済効果が実感できる仕組みの改善、交流人口や移住の増加を視野に入れた将来投資事業としての拡大、それらを軸に置いた体制強化が最大限の効果を引き出すため必要であると感じる、考えを伺う。</p> <p>(2) 行政運営への積極的なデジタル技術の活用は、市民生活の質の向上に寄与すると考える。全国自治体では道路管理などにアプリケーションを活用して、道路破損などを発見した市民が撮影し投稿することで情報を共有するといった取り組みをしている所もある。ただ、これも「その事態を知らせたい」という思いのある市民がいて成り立つ、いわば申請型の方法と変わりはない。市民目線のデジタル活用であるならば、SNS で市民や奉仕団体などが何気なく発信している投稿や画像などから、潜在している課題を拾い上げる仕組みの構築こそ、DX 推進が導く仕組みの変革へとつながるのではないだろうか。個別課題のアウトリーチ手法に注力することを、市民目線の自治体として一歩踏み出し取り組むことは大きな意味を持つと考えるが、見解を伺う。</p>	

質問議員	質問の要旨	答弁要求者 職名
質問事項		
4 小林 俊		市長
1 新川踏切の改良	<p>踏切道改良促進法（以下、「法」）で改良すべき踏切に指定された、岩波駅下側の新川踏切の改良は、地元としては様々な対応も必要となる。それは JR の、市民から見れば横暴とも取れる、改良するなら踏切を一つ潰せ、という条件によるものであるが、行政にはしっかり対応願いたい。</p> <p>それはそれとして、指定されたからには、早急に改良工事を実施して、極めて幅が狭く、踏切の向こう側が見えない富士山型の道路傾斜となっている現地の危険を一刻も早く取り除いて欲しい。</p> <p>(1) 新川踏切にかかる、法に規定の「地方踏切道改良計画」は策定されているか。</p> <p>(2) 策定されているなら、それはどのような内容か。</p> <p>(3) これまで、現地に対しては、市道 1706 号線の改良拡幅も含めた図面が示されている。現在の市の計画はどうなっているのか。</p> <p>(4) 示された図面では、市道 1706 号線南側の圃場整備済み農地もかなりの面積で道路敷となるようである。早く改良を実施する方法としては、費用面からも、工事量を少なくすることも考えられる。現実的な最良の計画であって欲しいが、そのような観点での検討はしているか。</p> <p>(5) R 3 年の法の改正で、指定年限が撤廃された。このことは新川踏切の改良工事の実施時期に期限が設けられなくなった、ということか。</p> <p>(6) R 3 年の法の改正で、改良の方法が拡充された。この法改正を活かす改良方法はあるか。</p> <p>(7) 市道 1706 号線の深良新川護岸には、石垣の隙間から樹木雑草が繁茂し、深良の住民が年に一度、整備している。今年も 8 月 6 日に行った。これには農水省の多面的機能支払交付金で活動する、深良地区美しい水と緑保全の会が、深良川クリーンアップ作戦、として取り組んでいる。実質はほぼ完全なボランティアであるが、流れる水が深良用水の水であり、深良用水事業で完成した深良新川であるから、地元は取り組んでいる。しかし、深良川は一級河川であり、本来は県の管理である。市はどう考えるか。</p>	

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 要 求 者 職 名
	<p>(8) 踏切と市道 1706 号線が改良されるに当たっては、深良新川護岸は、樹木雑草の生えないように整備されるのか。</p> <p>(9) 市道 1706 号線の下には、深良用水の整備と同時に完成した、深良新川から周辺地域へ取水する水門、埋樋、堰が寛文年間から設置されている（五反田水門、弥平治埋樋、橋場堰）。新川南側の深良地区一帯を灌漑しているが、現状弥平治は機能不全である。市道の改良に合わせて、弥平治の改修を行い、更に、もう一本、仮称「令和堰」を踏切東側に新設したい。どう考えるか。</p> <p>(10) JR の地元対応には大いに不満があることは述べたが、新川踏切も含め、踏切手前で車両が停止しても、線路が見えず、電車の接近が確認できない状況が、ほぼ全ての踏切で現実である。JR が管理すべき線路敷に樹木雑草が生繁っているからである。踏切道改良をさせてやるからには踏切を一つ潰せ、と言わんばかりの対応の JR に、改良をしてやるからには樹木雑草の管理をしろ、と行政から迫って欲しい。どうか。</p> <p>(11) 願わくば JR とは協調、協力していきたいのは地元も同じである。ついては、JR の鉄道敷から固定資産税は納入されているのか。</p> <p>(12) 新川踏切の改良の時期的見通しはどうか。できるだけ早く実現して欲しいのだが。</p>	

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 要 求 者 職 名
2 スポーツによるまちおこし	<p>裾野市は水ヶ塚のクロスカントリー的なウッドチップ走路をPRし、準高地トレーニングのまち、を標榜している。陸上競技の発展を願う陸上競技協会員としては、精一杯応援して行きたい。</p> <p>準高地トレーニングであるが、現在の設備は、ランニングは可能だが、その他の競技、例えば球技や格闘技などは可能な施設が無い。実質的に陸上競技が対象となっている。</p> <p>陸上競技のトレーニングは、クロスカントリーだけでは十分ではなく、競技場でのスピード練習、タイムトライアルなどとの組み合わせた練習メニューが一般的である。その為には、裾野市陸上競技場が利用可能であることは、まちおこしに大変有利と考えられる。</p> <p>裾野の競技場では、裾野市陸上競技協会が、昨年から関東地区の大学の箱根駅伝常連校を招いて公認大会を開催している。また、静岡県東部陸上競技協会も、いつも使用する愛鷹県営陸上競技場がプロサッカーチームのホームグラウンドになって、高校生の強化記録会などを裾野で開催する必要性が増している。そこで問題になるのが競技場の公認である。日本陸連の公認は競技場にとって極めて重要である。</p> <p>(1) 競技場建設時には公認規格に沿ったものであった投擲の防護ネットが、現在の規格に合わなくなっていて、ハンマー投げ、円盤投げの投擲競技が行えない。このため、東部陸協、高体連が裾野で試合を行うことの妨げになっている。早急な防護ネットの改修が必要である。実施すべきと考えるが、どうか。</p> <p>(2) これまでは費用の面から先延ばし、公認放棄をするのでは無いかという恐れさえ感じる市の対応だった。費用について、ネーミングライツなどで収入を得ようという提案に、全く応じる気配が無かった。例えば、ウーブン・スタジアムでも GAZOO スタジアムでも良い。近隣に有力企業が多数あるのだから、御願いをしてみない手は無いと考え。新東名からの野球場、陸上競技場の見え方は、企業にとっても魅力があるのではないか。提案してみてはどうか。</p>	市長

質問事項	質問の要旨	答弁要求者 職名
3 裾野市行政のDX推進	<p>DX推進による行政事務の効率化とサービス向上は市民が双手を挙げて賛成することであり、是非推進して欲しい事柄である。裾野市では、若き副市長という能吏を得て、速やかに力強く推進されると期待する。</p> <p>総務省では、行政・自治体におけるDX推進の意義として、以下の3つを挙げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①デジタル技術やデータを活用して、住民の利便性を向上させること ②デジタル技術やAI等の活用により業務効率化を図り、人的資源を行政サービスの更なる向上に繋げていくこと ③データ様式の統一化・多様な情報を円滑に流通すること <p>2020年12月には自治体DX推進計画が策定された。重点取り組み事項として</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自治体の情報システムの標準化・共通化 ②マイナンバーカードの普及促進 ③自治体における行政手続のオンライン化 ④自治体のAI・RPA※利用推進（※RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)：人間の手作業を自動化する技術) ⑤テレワークの推進 ⑥セキュリティ対策の徹底 <p>などが挙げられている。手順としては次の4ステップがある。</p> <p>ステップ0：DXの認識共有・機運醸成</p> <p>ステップ1：全体方針を決定する</p> <p>ステップ2：推進体制を整備する</p> <p>ステップ3：DXの取り組みを実行</p> <p>更に、取り組むべき事項として、次の項目が挙げられている。</p> <p>地域デジタル社会の形成</p> <p>デジタルデバйд対策</p> <p>官僚の作成する文章であるから、ということも考慮に入れても、容易ではない事業であることが推認される。そこでお伺いする。</p>	市長

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 要 求 者 職 名
	<p>(1) 裾野市役所の、装備、機器、職員の習熟度の現状は、専門的な見地からはどのような状況か。</p> <p>(2) 具体的に住民の利便性向上とは、どのようなものか。</p> <p>(3) 行政のDX推進に対応して、住民にはどのような能力、設備、が求められるか。</p> <p>(4) 住民に必要な能力はどのように得られるか。</p> <p>(5) 住民側の設備などに要する費用は、誰がどこから捻出するか</p> <p>(6) 行政のDX化、業務効率化により、人員の削減がどの程度可能となる見通しか。</p> <p>(7) 行政のDX化、業務効率化により、人的資源をサービス向上に繋げることが出来るとすれば、それは(2)で得られる利便性向上にさらに付け加えられるものか。</p> <p>(8) 費用はどの程度が必要となるか。</p> <p>(9) 住民がサービス向上を実感するまでに、どの程度の期間を要するか。</p>	

質問議員 質問事項	質問の要旨	答弁要求者 職名
<p>5 岩井良枝</p> <p>1 異常気象から市民を守る施策の展開を</p>	<p>異常気象とは一般に、過去に経験した気象現象から大きく外れた現象で、人が一生の間にまれにしか経験しない現象を言うと言われてきました。しかし、近年は異常気象が常態化し、世界中で異常気象の発生を日常的に聞くようになってきました。その中でも、今年は特におかしな天気が多いと言われています。日本だけでも、関東以西での観測史上最速の梅雨明け、それに伴う季節外れの猛暑、その一方で前線と低気圧の影響で北日本では雨が降り続き、北海道では大きな被害が報告されています。それ以降も異常な高温や、線状降水帯の発生による豪雨災害が続き、今後もそれらの気候変動が続く可能性が予想されていることに大変危惧をしているところです。</p> <p>気候変動、異常気象の原因のひとつとして、温室効果ガス排出量の増加に伴う地球温暖化が言われ、全世界でその対策のためのルール作りがされました。</p> <p>当市でも 2021 年 10 月 5 日に、2050 年までに温室効果ガス排出の実質ゼロを目指し、脱炭素の持続可能な社会を目指すとした「カーボンニュートラルシティ」が宣言されました。再生可能エネルギーの普及・家庭や事業所における省エネルギーの促進・環境負荷の少ない交通の普及・集約したまちづくり・緑地の保全、緑化の推進・ごみの減量、リサイクルが重点的な取り組みとされています。そのどれもが行政、事業者、市民がそれぞれの責任をはたすことで実現できるものであり、丁寧な情報発信などスピード感を持って取り組んでほしいと思います。</p> <p>しかしその前に、いまある気温上昇などの現実から市民をどう守るのかを中心に市の見解を伺います。</p> <p>(1) 猛暑が続く中、長く希望されていた小中学校へのエアコン設置が 2019 年にされました。しかし設置対象は普通教室、特別支援学級、通級教室とされ、理科室や音楽室といった特別教室への設置はされていません。以下伺います。</p> <p>ア 市内小中学校の特別教室の数は。</p> <p>イ 特別教室への設置をすべきと考えますが検討されていますか。</p> <p>(2) 大雨による被害が比較的少なかった当市でも、ここ数年、毎年避難所を開設する事態となっています。避難所としても活用される学校体育館へもエアコンの設置を考えるべきと思いますが、見解を伺います。</p>	<p>市長</p>

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 要 求 者 職 名
	<p>(3) 厚生労働省は、近年、熱中症による健康被害が数多く報告されていることを踏まえ、2018年4月1日以降に生活保護を受給した世帯に対し、一定の条件を満たす場合にエアコンなどの冷房器具購入費（上限58,000円）と設置費用の支給を認める通達を発信しました。以下伺います。</p> <p>ア 現在の活用状況を伺います。</p> <p>イ エアコンの設置状況などは把握されていますか。</p> <p>(4) 熱中症による事故を未然に防ぐため、自宅に使用できるエアコンが1台もない在宅で市民税非課税の高齢者世帯を対象に、エアコン設置などの費用の一部を補助する自治体も増えています。補助の方向で検討をと考えますが当市の見解を伺います。</p> <p>(5) 本年2月議会の一般質問で、自然災害など多くの緊急情報を市民にいち早く届けるための手段の充実を求めました。これまでの取り組みと利用者の数の推移について伺います。</p> <p>(6) 「カーボンニュートラルシティ」の宣言で重点的な取り組みとされる中に緑地の保全、緑化の推進の項目があります。前回の質問でも公園だけではなく、広範囲にわたる緑の基本計画を推進していくために大切となる課の新設を要望しました。市長からは大変前向きな答弁をいただきました。その後の進捗について伺います。</p>	

質問議員 質問事項	質問の要旨	答弁要求者 職名
6 木村典由	現代の教育現場の環境は、今の子供達の親世代の頃にくらべ劇的に変化をしている。 変化している教育環境を伺います。	市長
1 学校教育現場の現状について	<p>(1) タブレットの使用状況について</p> <p>ア 授業における取り扱い方は。</p> <p>イ 導入後の子供達の反応は。</p> <p>ウ 読み取る力不足になっていないか。</p> <p>(2) コミュニティスクール活用の状況はどうなっているか。</p> <p>(3) 富沢区の一部で西小学校か、南小学校を選択できるようになっているが現状を伺う。</p>	市長
2 集客力向上に向けたイベントの日程調整について	<p>裾野市は元より近隣市町において、さまざまなイベントが行われている。日程が重ならなければ他市町のイベントも行きたいという声を聞く。市として何らかの対策をされているか伺う。</p> <p>(1) 近隣市町のイベント開催日程の把握はされているか。</p> <p>(2) イベントに関する情報交換はされているか。</p>	市長

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 要 求 者 職 名
<p>3 ヘルシーパーク周辺の観光整備について</p>	<p>(3) 現在市として、イベントの集客力向上に向けて取り組んでいることはあるか。</p> <p>(4) 今後、広域連携でイベントを行う考えはあるか。</p> <p>8月6日からヘルシーパーク裾野がプレオープンしました。市内外から多くの集客が期待できると思われるが、施設を生かした周辺の観光整備について伺う。</p> <p>(1) 施設周辺にグランピングなど、宿泊施設の誘致の考えはあるか。</p> <p>(2) 観光バスのトイレ休憩ができる駐車場整備の考えはあるか。</p> <p>(3) パノラマロードの1本西側にある電線の地中化による無電中化の考えはあるか。</p>	<p>市 長</p>